

「尚徳」 8月号 第551号 平成30年8月30日

鳥取大学附属小学校 学校便り

<http://www.fuzoku.tottori-u.ac.jp/~fusho/>

題字「尚徳」は、住川英明 附属学校部長 (元校長)



春川教育大附設初等学校で感じたこと

校長 小玉 芳敬

本年度、21名の児童と6名の教員が親善大使として韓国を訪れました。我々教員は附設初等学校の施設を見学し、大変ショックを受けました。教育に対する国家・国民の考え方、力の入れようの差です。

「図書室」ではなく3階建ての「図書館」、そこには子どもが思わず行きたくなる空間の演出（吹き抜けと採光、開架ロフトからの滑り台、「どこでも椅子」に変身する階段・踊り場）、ICT教育機器の充実、多目的空間の確保、保護者のボランティア司書など目を見張るものがありました。歓迎歓送式典や文化交流会を開催した立派な講堂。児童の放送室はテレビ局スタジオ級のなりきり空間。英語教育フロアでは3室と廊下すべてを英語漬け空間とし、常駐ALTの専属カウンターも配置。保健室には博士号取得間際のカウンセラーが常駐。特別支援室も2クラス併設。理科室には専属技官がいました。鳥取大学よりも手厚い人員配置です。韓国では公立の学校も、おおむねこのような状況とのことでした。

公的教育費の国別推移を調べたところ（図）、日本はGDP比3.5%と超低空の横ばいであるのに対し、韓国はここ20年で3%～5%へと着実に増加傾向を示しています。人は国の宝です。これからの日本を考えたとき、何を優先すべきか、今一度考えてみたいものです。

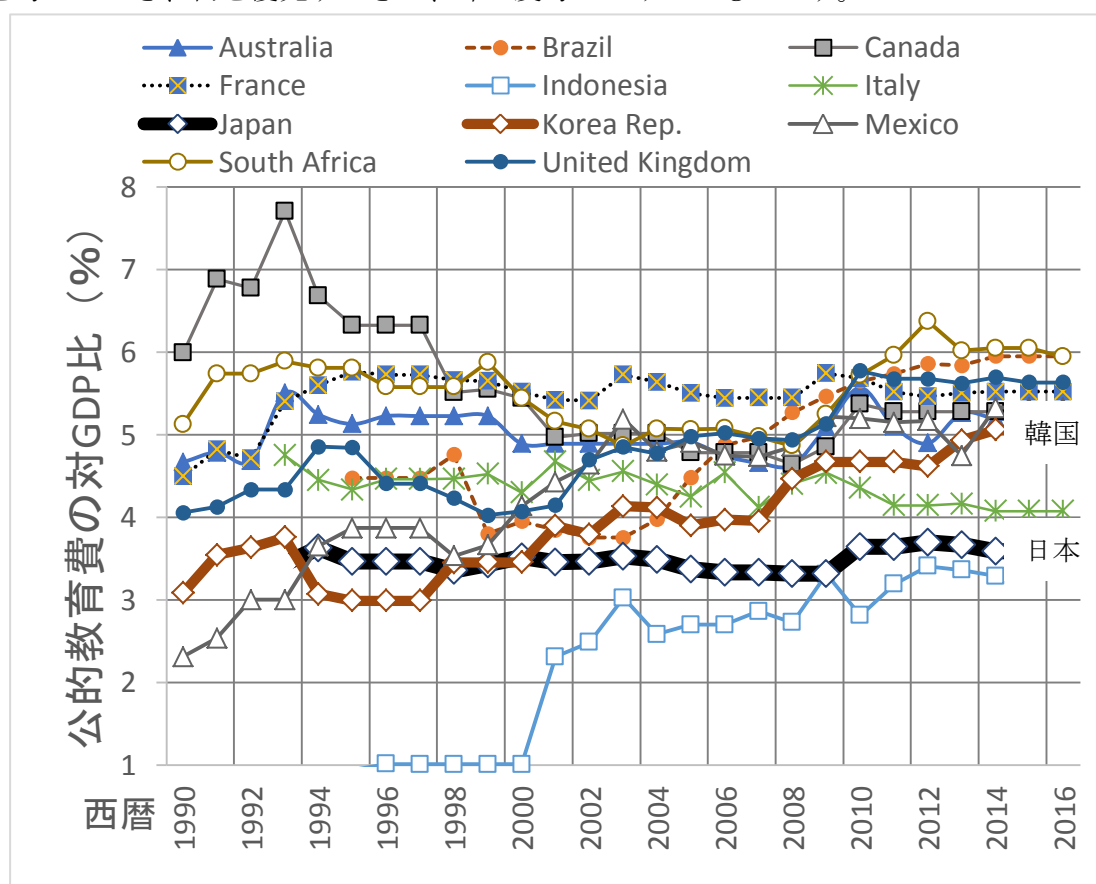


図 公的教育費の対GDP比の推移 UNESCOのデータより11か国について作成